

尾崎まさやの市議会報告

2015年度

発行元 尾崎まさや 〒640-8287 和歌山市築港3丁目33 TEL(073)436-2858 FAX(073)436-1398



長

2015年度当初予算

積み重ねた提案、 本市の政策に色濃く反映

外・内環状の完成近づく

昨年6月の定例和歌山市議会で副議長にご選任いただきまして、ご支援いただいております。皆様のお力添えによって、初当選から3期連続で議会に押し上げていただいておりますが、まだまだ若輩者、この責務の重大さに身の引き締まる思いでおります。山積する市政の課題を審査、解決していくための議会運営、そして市民の皆様に興味・ご理解をいただくための開かれた議会を目指すために誠心誠意努めて参りたいと決意しているところでございます。

さて、尾花市政初の当初予算案が発表されました。一般会計約1520億円、前年度比4.4%増の過去最大規模となりましたが、この中で私がずっと訴え続けてきた政策

が多く反映されています。

まずは市内の東西道路不足を補うとともに狭小道路解消に伴う地域の防災・防犯機能を高める「湊神前線」開通に向けての調査費2000万円が計上され、いよいよ本格的な事業化です。県も新年度予算に「南港山東線」いわゆる水軒通りの拡幅整備を予算化しており、外・内環状の完成がいよいよみえてきました。

同事業にも関連する砂山・今福地区のまちづくり予算が拡充されました。これまでの官民協働によるまちづくりと並行し、道路や公園などの一体整備とむつみ保育園前道路を「砂山コミュニティ緑道」として整備するなど約4330万円が予算化されました。これまでご協力いただいていた地域の皆さまの熱意が確実に形となって現れてきています。

水産業の振興へも

潮干狩り場の再生、鉄鋼スラグの魚礁整備

また、水産業振興にも支援。エイなどの被害を受けている片男波干潟のアサリの生育を促進するための調査、外敵駆除のため300万円。水産物の産卵場、稚魚の成育場となる鉄鋼スラグを使用した増殖礁を和歌浦湾に整備する

ための約2900万円などが盛り込まれています。これらは尾花市長の施政方針でも述べられ、重点施策に位置づけられています。今後も予算化された事業の促進を見守り監視を続けていくことをお誓いします。

初当選2004年からの軌跡

市議会本会議一般質問ダイジェスト

湊神前線

半世紀近く未着手区間

湊神前線の調査費に2000万円

県が水軒通り拡幅に着手

〔平成21年度当初議会〕

臨港地区は、工業地域として制限はあるが、制限の中でさまざまに事業も可能となり、中央市場前の臨港道路1号も、面道路の需要さえあれば大浦街道のような商業店舗が建ち並ぶことが可能で、その要素も十分ある。

一方、広域幹線道路や国道などを利用し、市外から流入してくる交通を処理する代表的な道路網は外環状と内環状があげられる。内環状は都心部周辺の環状道路で、整備進捗率は90%に達し、堀止交差点から大浦街道に抜ける湊神前線の約1キロを残すのみ。この区間の重要性は認識されているが事業化に至らず、計画から45年が経過している。

この地区は老朽化した木造住宅が密集し防災面での不安を抱えていることに加え、保育所や幼稚園も含めて実に18の教育施設6200人以上の子どもが通う地域であり、渋滞はもちろん通学にも危険な状態になっている。この地域に流入してくる交通を東西に貫く幹線道路によって処理することで今以上の安全を確保できると考える。

北島橋から紀の川大橋までの市道部分1.4キロが整備されれば、北インターチェンジから臨港地区までの約8キロの幹線道路ができ、下津港から第二阪和、阪和高速に至る幹線道路とも言える道路が完成し、第二阪和や北インターを活用した、京阪神への物流輸送や企業進出も期待され活性化に確実に寄与。言わば「北インター臨港・紀の川バイパス」として機能します。「北インター臨港・紀の川バイパス」の完成を県に働き

かけていくことが重要と考えるが市長の所見は？湊神前線の早期事業化の必要性についても聞かせてほしい。

市長 産業・経済面だけでなく生活環境面でも大きなメリットがあり、道路政策上、大変意義あるものと思う。指摘通り、港湾、工業地帯は道路というアクセスがなければいくら面積があっても機能せず、拡幅整備は国や県にとっても非常に有益。港湾整備事業の位置づけなど関係機関の協力が得られるよう強く働きかけたい。

湊神前線については、地積調査も終了し、今や事業化決定に障害はないが、街路事業は5路線が事業中です。残区間については、事業中の路線の進捗状況や完了時期を考慮しながら、今後の事業計画の中に位置づけていくということ

〔平成22年度12月議会〕

湊神前線の重要性は十分認識しており、今後の事業計画の中で市域全体の交通事情の変化を踏まえ、幅員の問題も含めて効果的な整備手法を考え、積極的に取り組んでいきたい。

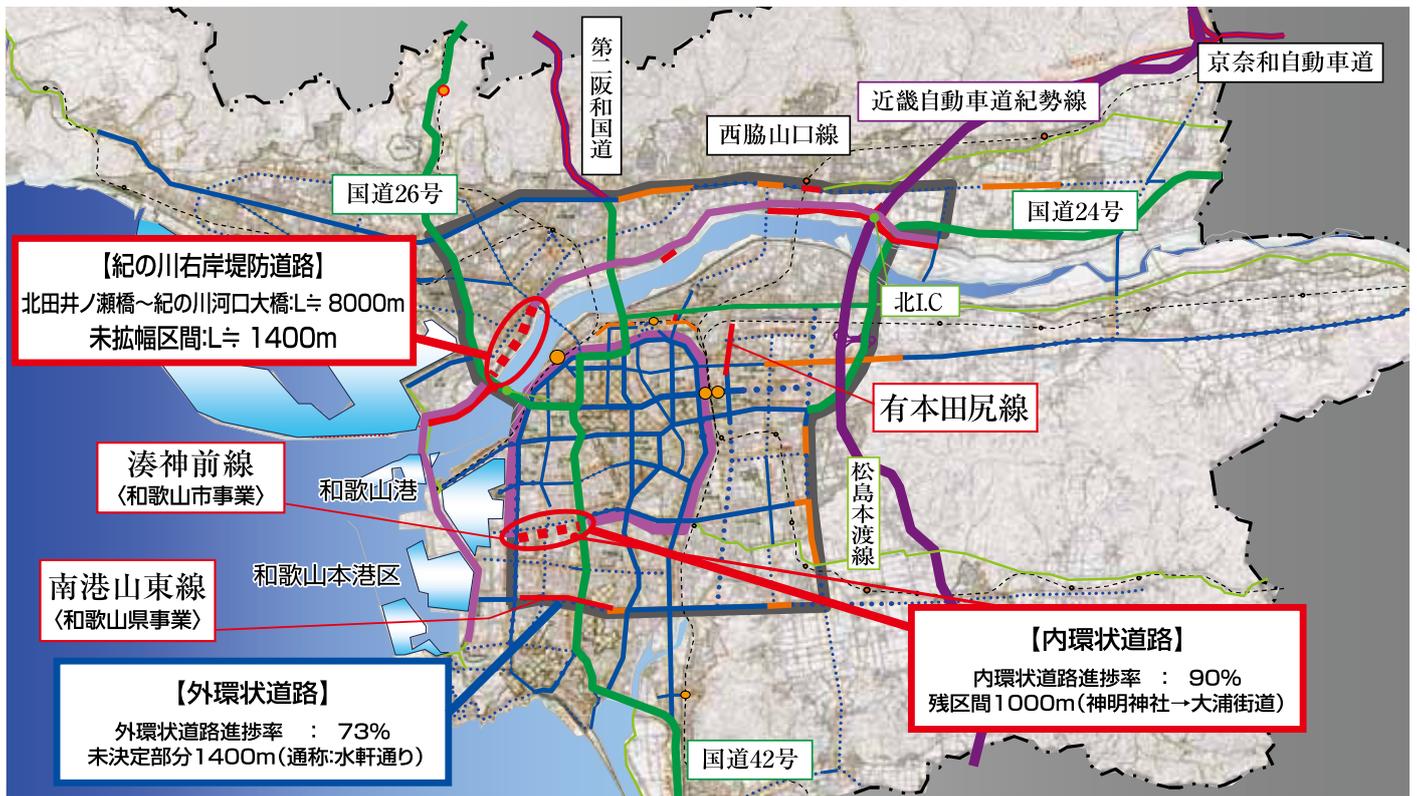
和歌山市の長期総合計画や都市計画マスタープランで書かれている外環状・内環状道路政策が、県の道路政策の中に生かされておらず、県と共有化されていない。

臨港地区に関して言えば、平成19年度の県の工業生産出荷額は約3兆円で、うち和歌山市の出荷額は1兆5711億円程度。このうち臨港地区は、県全体の約3分の1を占め、生産性の高いエリア。県の未利用地もあり、発展要素も多く残っています。和歌山市にとっても外環状・内環状道路は重要であることは言うまでもなく、外環状道路を臨港道路に設定しなおすなどの必要性も含め、県に理解をいただいて、和歌山市の道路については最優先で整備に力を入れてもらいたい。

一方、昔から和歌山市には、東西にかかる道がないとずっと言われていました。南港山東線が出来れば、臨港道路に接続でき、湊神前線は大浦街道に接続することで内環状が完成します。この2本の東西道路が完成することで和歌山市の道路体系はある程度完成に近づくと考えます。また、臨港道路体系が完成することで、外環状を臨港道路に付け替えし、現在の外環状道路と内環状道路の重複部分の棲み分けが可能となることなども本市の道路体系にとっては重要な課題であるはずですが。

この状況に少しでも早く到達するためには、地域のインフラ整備が県全体に及ぼす影響を考えても、できるだけ効率的で効果が早期に現れる方法を選択すべき。たとえば南港山東線の水軒通り未決部分約1400メートルを県に、湊神前線の神明神社から大浦街道まで約1000メートルを市で受け持つなどの役割分担はできないでしょうか？

加えて本市の文化振興課の人員体制は、かなり脆弱なもの。文化財に対する考え、道路整備などの基盤整備や民間の需要に答えていくことなど総合的に解決していくには、早急に学芸員の資格や経験



を有する方々を、職員や整備公社
団体職員も含め、適正規模でパワ
ーアップを図っていく必要がある
と思います。

市長 都市内道路交通の骨格とな
る基幹道路網の形成は、市政の重
要課題であり早急に実現すべきも
のであると認識している。長計な
ども位置づけられている外環
状、内環状などの完成は喫緊の課
題であり早急に取り組み予定で
す。外環状の付け替えは都市計画
道路の見直しの議論を経て、基幹
道路網の各路線の役割を再度検討
する予定で、この中で協議してい
く。整備優先順位を検討してい
くと、県と市の役割分担の検討も必
要になる。外環状、内環状にある
東西を結ぶ区間のうち未着手部分
については、役割分担の検討など
により早期実現を目指します。ま
た、その他の街路事業や幹線道路
網の整備計画を実効性のあるもの
とするため、市内幹線道路網の
県全体への貢献度という観点から
県市政策連携会議などで地域の実
情などを強く訴えていきます。

【平成25年度6月議会】

臨港地区から高速道路まで結ぶ
道として紀ノ川右岸線の提案をし
てきました。その後の進捗状況並
びに完成目途、及びこの事業に於
ける県と市の役割はいかがでしょ

うか？

建設局長 紀の川右岸道路の北島
湊線は、平成24年2月27日に幅員
7m、延長1380mを都市計画
決定し、現在、県において事業認
可に向けた詳細設計が行われてお
り、北島湊線と関連する道路の取
りつけ計画などについて県と市で
調整している。事業期間は、事業
認可後4年程度を目標と聞いてい
るが、早期の供用開始を目指し、
今後とも県市連携して取り組んで
いきます。県と市の役割について
は、県が北島湊線本線の整備を、
市が取りつけ道路などの関連道路
の整備を行うこととしています。

**雑賀崎・田野地区の
建築確認問題**

狭小道路の解決へ！

【平成21年度当初議会】

雑賀崎・田野地区は、風光明媚
な和歌浦湾に望み、古くからの町
並みをたたえた伝統的なまちの有
りようからも、非常に特徴のある
優れた集落地域であると思いま
す。これらの地域は、いずれも狭
く、すり鉢状の地形の中で綿綿と
立ち並ぶ家々は、なかなか市内で
は見つけることの出来ない風景
で、近年、景観の観点からも注目

されてきています。和歌山市の一
次産業の担い手であるこの漁業集
落は、都市計画法が施行される
ずっと以前から、自然発生的に成
立した村落であり、漁業振興・自
給率向上の観点から非常に大切な
地域です。景観という観点からも
非常に魅力のあるまちであること
から、現在、和歌山大学の先生方
や学生達も地域に入り、直接、地
域の方々から聞き取り調査をし、
研究発表もされています。地元
NPOの方々とも協働し、地域整
備、まちづくりに取り組みされてい
ます。

しかし、その特徴的な地形に
よって家々の間の道路も非常に狭
く、現行の建築基準法では建築確
認がおりないところが多く、新築
が困難な状況です。建築確認が
おりないということは、住宅ロー
ンによる融資を受けられないとい
うことであり、老朽化した住宅の建
替えを諦めたり、安全な住宅が建
築されないということにもなりか
ねません。若い方が結婚し、この
地に新たに住宅を建てることの困
難を考えると、他の地区へ住居を
移すことにもつながっています。
後継者問題など様々な課題を抱え
るこの地域にとっては大きな問題
で、放置されれば廃屋が増え、い
ずれ限界集落化されていくことは
火を見るよりも明らかです。今後、

大事な一次産業である漁業振興の観点からもこのような集落と現行法との問題について、どのような考えを持っていますか。

建築基準法に規定されている基準の趣旨は理解できます。それを満たす道では無いのかもしれませんが、その大部分は市道であり、これまでに和歌山市は貴重な税金を投入して漁業集落排水整備や漁港の整備に取り組んできています。不便な事は多分にあるが、この地で生まれこの地で暮らし、将来にわたってこの営みを紡いでいきたいと、住まわれている方々は願われています。市長、法の間でもがき苦しんでいる人たちがあれば、時には法の改正を改めて訴える必要もあるかと考えますが、何らかの救済策も含め、考えをお聞かせ下さい。

地場産業の活性化を！

色抜き条例、下水道料金の緩和できないものか!?

〔平成24年度当初議会〕

和歌山市の事業所数の推移は中核市の平均より減りが大きい。平成15年度に928社あったのが平成21年度には692社でマイナス236社という大幅減です。製造出荷額に占める業種別の割合では、鉄鋼業46・2%、化学19・

市長 雑賀崎・田野地区は古くからの漁業集落で、観光資源としても重要なものだと考えています。現在の建設基準法に適合した建築を行うことが極めて難しい場所

で、たとえば地区計画の手法を使うとしてもセトバックして道幅を少しでも広げる必要があり、地権者や地区の総意が前提となるなど大変難しい問題があります。両地区の多くの方々から何度も要望をいただいております。いつそ都市計画区域から外してほしいという切実な声も聞いています。当該の住民の皆様にとつては死活問題であることを十分承知しており、こうした特殊な歴史的文化的価値のある地域における運用について同法の改正ができないかも含め、国に対して意見を述べたいと思っております。

この大企業と中小零細企業の2極化を、どうバランスさせて産業の発展につなげるか、中小零細企業の経営者が真に何を望んでいるかなどを真剣に考える必要があるのではないかと省みるにここ近年、和歌山市は地場産業のために何をしてきたのか。

非常に優れた企業が多い化学工業だが、和歌山市の「色抜き条例」制定に伴って他都市へ移り、和歌山市工場を閉鎖した企業があります。ここ最近でも、福井県の工業団地に工場を新設する予定の企業があります。なんと、この企業は、ジャンボ飛行機「ボーイング787」の炭素繊維複合材料の基本素材を作っています。こんな優秀な地場産業が他地域へ移る選択をせざるを得なくなっている実態があります。

色抜き条例は、環境の面では、下水道の普及も相まって水質の浄化がはかられ、過去には日本一汚いと言われた川にも様々な魚種や鳥などが戻った。しかし、その影で設備投資に相当な負担をしている企業も多く、この負担を避けるため工場を他地域に移すという選択を迫られた企業が3社あります。

加えて下水道料金の値上げ。和歌山化成品工業協同組合の加盟

社のうち、A社は平成16年度約1500万円であった使用料が22年度では約2倍の約3400万円に。B社も約970万円が約2200万円に跳ね上がっています。今後、更に7・9%アップになります。中には企業努力で16年度の2069万円を22年度に2万5千円にした企業もあります。この企業努力とは、和歌山市での工場生産を停止して福井へ移ったということです。

市への貢献度を考えれば、これら企業の環境はあまりにも過酷であり、色抜き条例によつて多くの投資を強いられたにもかかわらず、更に下水道料金そのものが値上げされる。一方、特定施設である和歌川終末処理場では色抜き条例の規制により高度処理をしているという実態があります。

環境の問題や周辺の市街化については、都市計画の上で、市街地内に於ける工業地区の振興施策のための土地の誘導はできないものか。エリアわけを徹底して、立地場所を確保し、周辺緑化によって住宅地域とはつきり分離するなど、工業地域としての新陳代謝が活発に進むよう保全する必要があるのではないかと。単に課題解決を企業に押し付けるのではなく、関係部局が協力しながら、きめ細かい支援をすることが出来ないのか? 聞

びシロのある地場産業を振興することは税収増加につながる。積極的な施策が必要ではないか。市街化区域の工業地域における下水道料金や色抜き条例についての考え方について市長の所見は?

市長 下水道料金は、工場排水など大量の排水の受け入れに大規模な処理施設が必要となり経費が増加することから、使用水量に応じた累進従量制を採用。本市の工場群の排水は、下水道に接続して下水道料金の負担を負うので、大口の利用者に多くの負担をお願いしているが、業界からも要望をいただいでいてそのことは重く受け止めている。地場産業の振興と公的経費の負担バランスをとることは、非常に大切な視点。今後もより深く注視し、業界とも協議を重ねていく。

色抜き条例については、平成6年4月の規制基準適用以後は、内川の着色度も大幅改善され魚の泳ぐ姿も見られるようになった。しかし、一方で数社の会社が撤退するなど条例制定の功罪が分かれることもあるので、規制基準の緩和などを含め検討を進めたい。

〔平成25年度6月議会〕

前回の市長の答弁内容は、色抜き条例について大きく踏み込まれた趣旨の発言をされています。聞

きたかったのは、いかに環境を守りながら、本市の納税者である住民や事業者が共存でき、地場産業を発展・振興して頂けるか。その為にも過去からの経過も含め今一度、市が持ち得る英知を結集し、新たな仕組み作りや基準作りをして頂きたいという事でした。その上で「和歌川終末処理区域内の工業地域に於ける下水道料金」について、市長は「地場産業の振興と公的経費の負担バランスをとることとは、非常に大切な視点である」と認識しており、業界の方々と協議を重ねてまいりたいと思えます」との答弁でした。その後の取り組みと、現状についてはどうでしょうか。また、公共下水道に接続されている事業者には色抜き処理を要するのではなく、受人基準から色に関する条項を抜いて和歌川終末処理場だけの単独処理は技術的に出来ないのでしょうか。

市長 下水道料金につきましては、平成24年2月議会で答弁以後、関係業界の方々と協議を進めています。協議を通じて化学産業各社の負担と公共下水道の処理経費を見て、総コストの抑制を行うシステムづくりが必要であると説明し、それについては、ある程度の御理解をいただいていると考えています。その際、業界からは、各社の色を除外する施設に係る経費削減と規制に係るさまざまな御意見をいただき、現在、対応策を種々検討しているところであります。公共下水道会計は現在も厳しい状況でありまして、管理費の削減を行いつつの検討ですので、処理コスト及び処理能力の両面から確認が必要でです。さらに、地場産業への振興という面から料金制度への踏み込んだ検討に時間を要しているところでもあります。

公共下水道の受け入れ基準から色に関する条項を抜いて、和歌川終末処理場だけの単独処理は技術的にできないものかということですが、試験室での確認及び現場での社会実験を視野に、下水道部内に技術的な色規制受け入れ基準検討部会を平成24年度に立ち上げ、今年度は庁内横断的な手続等の工程を進めるため、下水道環境、まちづくり部門で関係課長会議を立ち上げ、調整、検討しています。市にとって化学工業は、出荷額や雇用の面からも重要な地場産業であり、継続的に発展を続けられるように課題に取り組んでいきます。

急がれる空き家対策

持続可能なまちづくりに向け

【平成25年度6月議会】

空き家問題は高齢化を背景に今後さらなる深刻化が予想されます。この空き家問題は行政機関、特に基礎自治体の積極的な関与なくして解決できないと思うので

で、この現象は安心安全からは程遠いばかりか、景観や町の風情といったものまで、その価値すら変えていってしまいます。

す。都市計画税を徴収し、都市計画道路路・下水道・公園などの都市施設の整備や宅地の利用の増進を図るための土地区画整理を行う都市計画事業が行われている市街化区域内、つまり「まちの中」に空き家が増えていった場合、まちが

それにより居住者等の集約拠点等への移行を誘導する。住宅用地全体の面積は抑制しつつ一定の居住環境を維持していくこと。つまり全体として空き家をなくし、居住を集約していくなどの施策や土地の利用のあり方を考えていくことは、多核型の都市を都市計画マスタープランで標榜している和歌山市にとっては持続可能なまちを構築する上で、まさに重要、かつ必要があると考えます。

後さらなる深刻化が予想されます。この空き家問題は行政機関、特に基礎自治体の積極的な関与なくして解決できないと思うので

現在人口と世帯数ほどのようになっていますか。また、03年頃には人口が30万人前後とか言われていますが、その場合、空き家となる家屋はどのくらい出て来るのでしょうか。

す。この空き家問題は行政機関、特に基礎自治体の積極的な関与なくして解決できないと思うので

総務公室長 平成25年6月1日現在の人口は36万6444人、世帯数は15万5232世帯となっております。2030年に約31万人、35年に約29万人になると推計されています。

後さらなる深刻化が予想されます。この空き家問題は行政機関、特に基礎自治体の積極的な関与なくして解決できないと思うので

副市長 平成25年4月1日に和歌山市空き家等の適正管理に関する条例が施行されています。しかし、4月以降現在まで、空き家に関する相談の件数については37件、危険であると判定されている家屋につきましては12件。このうち撤去予定のものは2件ですが、実際に撤去された事例はまだございません。



ています。空き家数は、平成15年に2万9120戸、同20年に3万1060戸に増加。空き家数は、人口減少や核家族化、高齢化の進展などにより今後も増えていくと推定されます。



「空き家」問題は、今後ますます深刻化していくことがわかりました。ただ国の補助制度を拡充しても空き家の解体が急速に進むかは不透明。解体で建物がなくなると、住宅用地の優遇措置の対象から外され、固定資産税が数倍に跳ね上がるため。国交省は「課税方法も見直す必要がある」とみていて、空き家の不具合や庭の草刈りなどの管理ビジネスを手がける不動産業者や工務店、業界団体に対しても支援する方針。このような政策を活用してまちづくりを進めるお考えはありますか。

適正な住環境を形成するために、こういった老朽化した空き家

に対する抜本的な問題解消が必要なのは十分認識しています。しかし、国の空き家再生等推進事業では、対象となる建物が限られ、市の方で進めたいと思う空き家対策には不十分。そのために、市独自の政策も前向きに考えていかなければいけないと考えています。

既存インフラが整備された地域や市の中心部を初めとする空洞化が予想される地域で空き家対策に取り組むことが持続可能なまちづくりのためにも大変重要なことだと考えており、新しい施策を活用してまちづくりを進めていきたいと考えています。

鉄鋼スラグの可能性探る

環境負荷軽減、水産業振興に

〔平成25年度6月議会〕

鉄鋼は和歌山市の主たる産業だが新聞に「鉄鋼スラグ海に栄養」「コンブ復活 効果てきめん」という記事が載りました。新日本製鉄はスラグに含まれる鉄分の効果に目をつけ廃木材チップを発酵させた腐葉土とスラグを混ぜた「鉄分供給ユニット」をつくり実証実験を始めた結果、抱えられないほ



どコンブが育ったというのです。その記事に触れ早速、住友金属和歌山製鉄所を訪れ環境・エネルギー部の方々と鉄鋼スラグの取り組みについて見聞きし、改めてその可能性を大いに実感しました。その後、社名が変更された新日鉄住金の方々に来庁していただき、市の関連職員にも鉄鋼スラグの話聞いてもらいました。魚礁はもとより酸性の土を中和する効果があることや、歩道の舗装や様々な使い方ができるといふことで、鉄鋼スラグは海・山・川・まちにも使えるビタミン剤のような物などと、その可能性に触れました。

紀ノ川河口から沿岸部にかけての汽水域は様々な魚種の産卵の場でもあります。藻場や魚礁に鉄鋼スラグの活用が図れば、海藻類や魚が育つ優良なエリアになり得るし、たとえば将来的にLNG火力発電所が稼働するなどがあれば、海水温の関係なども相乗効果となり、和歌浦湾が良質な漁場に発展する可能性もあり、更に和歌浦ブランドとしてその価値が高まるのではないのでしょうか？今後、和歌山市でも様々な利活用を考え、工業製品の販売促進戦略となるよう「鉄鋼スラグ」を活用してはどうでしょうか？

市長 鉄鋼スラグは、省資源、省エネルギーの観点から、環境への負荷を低減させるリサイクル材として評価され、グリーン購入法の指定も受けています。新日鐵住金和歌山で発生する鉄鋼スラグを魚礁などに上手に利活用できれば、本市にとって産業間の連携、循環が図れる魅力的な新しい工業製品の誕生につながるものと期待します。

市は、岡公園天妃山西側階段の一部約40平方メートルを実証実験場として、鉄鋼スラグと融合させた土系の舗装を行っています。試験施工された舗装の硬度、耐久性等を確認しつつ、利活用に向け研究しています。今後、鉄鋼スラグに関する情報収集をさらに積極的に進めるとともに、魚礁としての利用については、各地で行われている実証実験を参考に今後の計画に生かせるよう取り組んでいきます。



片男波潮干狩り場再生へ

和歌浦湾に稚魚の増殖礁設置

〔平成25年度9月議会・経済文教委員会〕

尾崎 片男波潮干狩り場のアサリがなくなつた要因はどのように考えていますか？

担当課長 エイ、チヌ、ツメタガイによる食害が大きく影響しているのではないかと。水温上昇の影響や魚の行動も変わってきているのもその原因かと思っています。

尾崎 エイの駆除はアサリを守るという観点からもそうですし、海水浴客の安全を守るといふ観点からも大切です。エイの駆除に取り

組んでいただく考えはないですか？

担当課長 エイの駆除ですが、現在のところはネットを張るなどしてアサリを守ることで手一杯というのが現実です。

尾崎 これは水産業ということだけでなく、海水浴客の安全性、潮干狩りなどの観光面の資源ということもありますので、ぜひ一度議論を深めていただきたいと要望しておきます。

砂山今福まちづくり

国の認可受け、5カ年の都市再生整備がスタート

27年度は道路・公園一体整備や砂山コミュニティ緑道事業などに4300万円

〔平成16年度2月議会〕

砂山地区には、県立和歌山商高、和歌山ろう学校、市立西和中、砂山小、砂山保育園、社会福祉法人むつみ保育所の計6つの教育施設が集中し、児童生徒数2330名強が通学する文教地区的な他に類を見ない地域。ほかにも国土交通省近畿地方整備局、和歌山河川工事事務所、県環境衛生研究センター、裁判所宿舍、和歌山合同宿舍1号棟、和歌山市砂山連絡所等の公共機関の建物も多数ある。教育のメッカといえるこの地区全体の再生をどう考えるか、率先して示すべきで、前述の要素をコンセプトに再生する「砂山南地区文教の杜計画」を提案したい。

企画部長 まちづくりで重要なことは地元の合意形成や盛り上がりで、ワークショップ等で意見調整を行い、合意形成を図る必要がある。各施設管理者等の認識と十分な調査、検討も必要。国の補助制度等は、調査事業費の全国都市再生モデル調査、コミュニティ事業のコミュニティ助成事業等。今年度から都市再生のために創設されたまちづくり交付金等の活用も考えられる。これらを受けるには、目標と達成状況を評価する指標を設定した都市再生整備計画を作成、採択される必要がある。まち

づくりの手法については研究・検討の余地が多分に残されているので、進めていきたい。

〔平成21年度3月初議会〕

中核市の和歌山市では教育研修センターの設置が必要と考えますし、防災面でも、日本赤十字病院や看護学校のほか、国や県の出先機関が集積され、大規模な防災時には避難所として極めて大きな役割を果たすことになる場所であると思う。今福地区は、道路が輻輳し迷路のようになっていてなかなか基盤整備が進んでいない。風情のある町並みですが、防災面や衛生面では難点があります。都市計画では湊神前線や今福都市公園が描かれていますが一向に進まず、たびたび浸水にも悩まされています。まちづくり交付金などの活用を本気で考え、点から線を結び面整備へつなげていく絶好のチャンスです。

市長 都市計画で定める文教地区の指定は、その地区の特定にふさわしい土地利用の増進のため、用途地域を補完して定める指定で、そのため規制

の強化ともなる面があります。従いまして、地域の方々の意向がま

とまることが重要です。まちづくり局、建設局を中心に庁内横断的

都市再生整備計画事業箇所



なプロジェクトを立ち上げ、教育委員会をはじめ関係部局で議論を重ね、都市再生整備計画を含めた他の手法も考慮するなど地域の方々の意向や要望も伺いつつ、当該地域の歴史を踏まえるとともに、文教地区としての特色を活かしたより良いまちづくりを推進していきたい。

〔平成22年度12月議会〕

プロジェクトチームによる「物語の生まれるまちづくり」とおり、この地域は和歌山市のモニュメントとしてもふさわしい歴史と公共性がある場所です。この計画が具体的にもう一步踏み出すためには、市長が強いリーダーシップを発揮して、国や県に自ら主体的に働きかけていただくことがどうしても必要だと考えます。

市長 文教地区の良さを生かしたモデルケースとなるような新しいまちづくりを地元の皆さんとともに市行政や諸官庁、教育・子育ての関係機関が協力し合って実現させたい。関係者が協議を通じて合意し、総合的な基盤整備として市の具体案を示せるよう取り組んでいきます。

〔平成24年度当初議会〕

湊神前線の早期開通は今福地区周辺の住宅密集地域の環境改善と

防災力向上に有益です。さらに南港山東線は、臨海部から外環状の東西方向を担う新たなアクセスルートとして物流や南東部からの交通アクセスに重要な道路です。この2本の道路は、県市連携の下に早期完成を目指すべきです。この完成によって本市の基本的道路骨格が完成する、と思います。今後どのような街をつくっていくにしろ、環境と調和した持続可能なメリハリのあるまちでなくてはならないということは変わらないでしょう。その実現に向けて、どのような戦略的取り組みをされようとしているのか。

市長 文教施設が集まっているという特色を生かした交通網の整備、地球に優しい環境づくりと住環境の向上を図ることは、魅力ある「まち」を構築することにつながる。地域の特色を活かし、そこに住む方々と協働して進めるまちづくりの積み重ねこそが和歌山市の戦略的取り組みと考える。湊神前線の早期実現に向け、県と協議してまいりたい。

〔平成25年度6月議会〕

課題は沢山ありますが、シンブルに「県都発展」の為、県が都市間道路と位置づけている南港山東線は和歌山市が受けていく。一方、都市内道路の湊神前線は、何とか

市長が仁坂知事に協力を直談判して頂けないでしょうか。また、雄湊西浜線から続く今福17号線愛徳園までの歩道整備の延長と、未着手の雄湊西浜線や今福公園はまちづくりの中で実現可能な計画として早急に見直し、出来る箇所から整えていけないうかが。

市長 湊神前線や雄湊西浜線の整備は、砂山、今福地区のまちづくりと、それから災害発生時の避難路確保のためにぜひとも早期に実現しなければならぬ課題。南港山東線についても県市政策連絡会議でいろいろと持ち合いについて協議した。湊神前線についても役割分担について協議を進め、場合によっては知事に直接要望します。

雄湊西浜線の歩道整備延長は、事業中の他の路線の進捗状況などを踏まえて、既存の歩道を活用した整備に取り組んでいきます。また、西和中学校南東部から南側の雄湊西浜線は、都市計画道路の計画の見直しに合わせて、効率的な整備計画を検討する。

今福公園は、計画区域内に多くの住宅が建ち並び、計画どおりに施工するにはかなりの年月を要するため、防災空間としての必要性を考慮しつつ、規模や用途など計画の見直しを検討していく。

あとがき



今号では、過去の市議会本

会議での一般質問の内容と当局の答弁を要約してご紹介させていただきますました。本会議以外でも常任委員会などで様々な問題について質問、提起し、市民の暮らし向上のため働きかけて参りました。

私は、まちづくりで一番大切な要素は「人」だと思っています。まちの伝統や文化、

連帯はすべて地域住民がつくりあげてきたものです。地域のコミュニティによってあたためられ、受け継がれ、形づき、変化し、現在のまちがあります。まちづくりの主体が「人」であれば、私が提案し続けてきた「文教の杜計画」こそ、まちづくりのための、人づくり、をしていく地域であり、

ここには「未来」があります。加えて、まちの将来像を描く視点に加え、地域の実情や交通アクセスなどさまざまな機能に配慮した都市計画を立てることが大切です。さらに言うところ環境面や「弱者」の立場に立った優しいまちづくりができれば最高です。

外・内環状の早期完成、地場産業活性化のための規制緩和などは地域の産業振興のために必要です。同じく空き家問題の解決や鉄鋼スラグの活用も産業振興に関連するともに環境や弱者に優しいまちづくり実現に必要なことです。

まちの未来の担い手となる子どもたちを守ることは大人の役目です。地域住民の暮らしを守る事が地方自治体の責務です。私にはその2つの責任があることを肝に銘じ、今後も様々な問題と向き合い、まちづくりのため提案し続けることをお誓いします。

尾崎 まさや